

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 3 月 4 日 (2021.3.4)

【公開番号】特開 2019-163963 (P2019-163963A)

【公開日】令和 1 年 9 月 26 日 (2019.9.26)

【年通号数】公開・登録公報 2019-039

【出願番号】特願 2018-50959 (P2018-50959)

【国際特許分類】

G 0 4 R 60/10 (2013.01)

G 0 4 G 21/04 (2013.01)

G 0 4 C 9/00 (2006.01)

G 0 4 C 10/02 (2006.01)

G 0 4 G 19/00 (2006.01)

G 0 4 C 3/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 4 R 60/10

G 0 4 G 21/04

G 0 4 C 9/00 3 0 1 A

G 0 4 C 10/02 A

G 0 4 G 19/00 B

G 0 4 C 3/00 K

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 1 月 21 日 (2021.1.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 面と、前記第 1 面の反対側の面である第 2 面と、を有し、カレンダー車を保持する樹脂製のカレンダー押さえを備え、

前記カレンダー押さえは、

前記第 1 面に設けられた第 1 導体素子と、

前記第 2 面に設けられ、厚さ方向から見た平面視において、前記第 1 導体素子と重なる第 2 導体素子と、を備え、

前記第 1 導体素子と前記第 2 導体素子とは、アンテナを構成する、

電子時計。

【請求項 2】

前記カレンダー押さえは、

前記第 1 面と前記第 2 面との間に位置する側面と、

前記側面に設けられ、前記第 1 導体素子と前記第 2 導体素子とを電氣的に接続する短絡部と、

を有することを特徴とする請求項 1 に記載の電子時計。

【請求項 3】

前記カレンダー押さえの前記第 2 面側に設けられた地板と、

前記カレンダー押さえを前記地板に固定する第 1 固定部材と、を有し、

前記第 1 固定部材は、前記第 1 導体素子または前記第 2 導体素子と導通しないように配

置されることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の電子時計。

【請求項 4】

側面視において文字板と前記カレンダー押さえとの間に配置されるソーラーパネルを有することを特徴とする請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の電子時計。

【請求項 5】

前記ソーラーパネルの正極端子と負極端子のうち接地電位を与えられる方の端子は前記第 1 導体素子に接続されていることを特徴とする請求項 4 に記載の電子時計。

【請求項 6】

前記カレンダー押さえを収納する導電性のケースを有し、
前記平面視において、前記ケースの内径は前記カレンダー押さえの外径よりも大きいことを特徴とする請求項 1 ～ 5 の何れか 1 項に記載の電子時計。

【請求項 7】

第 1 面と、前記第 1 面の反対側の面である第 2 面と、を有し、カレンダー車を保持する樹脂製のカレンダー押さえと、
前記カレンダー押さえの前記第 2 面側に設けられた地板と、
前記カレンダー押さえと前記地板との間に設けられた導体板と、を備え、
前記カレンダー押さえは、
前記第 1 面に設けられた第 1 導体素子と、
前記第 2 面に設けられ、厚さ方向から見た平面視において、前記第 1 導体素子と重なる第 2 導体素子と、を有し、
前記第 2 導体素子と前記導体板とが電氣的に接続され、
前記第 1 導体素子と前記第 2 導体素子と前記導体板とは、アンテナを構成する、
ことを特徴とする電子時計。

【請求項 8】

前記カレンダー押さえは、
前記第 1 面と前記第 2 面との間に位置する側面と、
前記側面に設けられ、前記第 1 導体素子と前記第 2 導体素子とを電氣的に接続する短絡部と、
を有することを特徴とする請求項 7 に記載の電子時計。

【請求項 9】

前記導体板は耐磁板であることを特徴とする請求項 7 または請求項 8 に記載の電子時計。

【請求項 10】

前記耐磁板は、純鉄板をニッケル膜で被覆した構造を有し、前記ニッケル膜の厚みは 2 マイクロメートル以上、10 マイクロメートル以下であることを特徴とする請求項 9 に記載の電子時計。

【請求項 11】

前記平面視において前記第 2 導体素子の面積と前記導体板の面積の和から前記第 2 導体素子と前記導体板とが重なっている部分の面積を減算して得られる面積が、前記平面視における前記第 1 導体素子の面積よりも大きいことを特徴とする請求項 7 ～ 10 の何れか 1 項に記載の電子時計。

【請求項 12】

前記第 2 導体素子と前記導体板とを接触させて固定する第 2 固定部材を、前記平面視において前記第 2 導体素子と前記導体板とが重なる位置に有することを特徴とする請求項 7 ～ 11 の何れかに記載の電子時計。

【請求項 13】

前記平面視において、前記第 1 導体素子の外径は、前記カレンダー車の内径より大きいことを特徴とする請求項 1 ～ 12 の何れか 1 項に記載の電子時計。

【請求項 14】

前記カレンダー押さえは、前記カレンダー車を覆い、前記カレンダー車の一部を視認さ

せるための開口部を有することを特徴とする請求項 1 ～ 1 3 の何れか 1 項に記載の電子時計。